

2026ルール・マナー講習会

愛され、応援されるゴルファーへ

～ゴルフのマナーとエチケット：君たちの「質」が未来を創る～

主催：大阪府高等学校中学校ゴルフ連盟

対象：中高校生ゴルファー

1. はじめに：なぜ今、君たちが注目されているのか？

- ゴルフ界の現状：
 - ゴルフ人口の減少と、ジュニア世代への期待。
 - 君たちは単なるプレーヤーではなく、ゴルフ界の「顔(アンバサダー)」である。
- 本日のゴール：
 - 「スコアが良い選手」から「応援される選手」へ。
 - マナーを「義務」ではなく「自分の価値を高めるツール」と捉え直す。

2. 思考セッション：ルールとマナーの違い

- 問い：「ルール」と「マナー」は何が違うと思いますか？
- 解説：
 - ルール：競技を成立させるための決め事(守らないと罰打)。
 - マナー：他者への思いやり(罰則はないが、信頼を失う)。
- 議論：「技術はプロ級だがマナーが最悪な選手」と「技術は発展途上だが礼儀正しい選手」、スポンサーやファンはどちらを応援したいか？

3. 絶対的な優先事項：安全(Safety First)

- 一打の重み：ゴルフボールは時に凶器になる。
- 具体的な行動指針：
 - 前の組が射程圏内から出るまで絶対に打たない。
 - 素振りの際、周囲に人がいないか必ず目視で確認する。
 - 万が一、他人の方向に飛んだら、即座に、全力で「フォアー！」と叫ぶ。

4. 反面教師：「悪い」実例から考える

- 実例1：感情のコントロール(道具・コースへの八つ当たり)
 - ミス後にクラブを投げる、グリーンをパターで叩く。
 - 問い：君が道具を作っているメーカーの社長なら、その選手に道具を提供したいか？
- 実例2：誠実さの欠如(不正・過少申告)
 - 誰も見ていないところでボールを動かす、嘘をつく。
 - 解説：ゴルフは「審判がいない」スポーツ。一度ついた「嘘」のレッテルは、一生剥がれない。
- 実例3：感謝の忘却(周囲への態度)
 - スコアが悪いから関係者への挨拶をしない。
 - 問い：応援してくれる人がゼロになったとき、君の「スコア」に価値はあるか？

5. 愛されるためのコミュニケーション

- 挨拶の力: コース関係者、試合関係者、同伴競技者、ゴルフ場にいるすべての人への「自分から」の挨拶。
- 態度の重要性: 他人のナイスショットを素直に称える。
- 感謝の対象を広げる: 保護者の送迎、連盟の運営、コース管理スタッフへの感謝。

6. プレーのペースとコース愛護

- 「時間」は全員の財産: 移動はキビキビと。準備は自分の番が来る前に。
- コースは君たちのステージ:
 - ボールマーク修復、バンカーならし、目土(めつち)の励行。
- 美学: 「来た時よりも美しく」して去るのが一流。

7. まとめ・質疑応答

- メッセージ: 大阪から、日本中、世界中から応援されるゴルファーを目指そう。
- クロージング問いかけ: 「今日、この会場を出た瞬間から変えられる『一つの一步』は何ですか？」

※大阪府高等学校・中学校ゴルフ選手権(アートレイクGC)出場にあたり

- ① 指定練習・大会当日の組み合わせは、原則ラウンドの一週間前にはHPの「お知らせ」にて、アナウンスします。
- ② コースには、スタートの1時間前には到着し、受付に行くようにしてください。
- ③ スタート時刻10分前には、スタートの用意(競技の条件・ローカルルールを印刷したもの・目土袋・グリーンフォーク・使用球)を持って、スタートホール周辺で待機してください。
- ④ ユニフォームについて、帽子とポロシャツに、学校名(漢字、ローマ字どちらでも可)を刺繍 or プリント or ワッペン(刺繍したものを縫い付ける)が必要になります。